

## サブテーマ設定の理由及び研究協議の視点について

### 1 大会主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」

(第1 2期 全国統一研究主題 3年次)

〈キーワード〉：自立・協働・創造

[サブテーマ]：郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する  
学校づくりの推進

### 2 岩手大会のサブテーマ

第1 2期最終年次にあたる岩手大会は、2年次までの成果と課題を踏まえるとともに、全国統一主題にある「未来を生きる力」を育む魅力ある学校づくりのために、副校長・教頭としてどのように寄与していくべきなのかを明らかにすることが大きな目的であると捉えた。

社会は急速に変化・発展し続けており、将来の予測が困難な社会を生きていく子供たちに身に付けさせなければならない資質・能力等は多岐にわたっている。学校教育にはその実現のための大きな責務があり、未来を生きる力を身に付けた子供を育てる学校づくりの推進のために副校長・教頭が果たすべき役割は大きい。

また、第6 4回大会の開催地である岩手県は、平成2 3年3月1 1日に発生した東日本大震災の被災地の一つでもある。学校現場では、郷土を愛し復興・発展に資する人づくりに取り組んでいる。このことは、岩手県で開催される大会であるという意義からも、そして岩手県に限らず、我が国全体で未来を生きる力を身に付けた子供を育成するためにも重要な視点であると考えた。

以上のことから、岩手大会の開催をとおり、自分たちの郷土に愛情と誇りをもち、持続可能な社会の担い手としての資質能力を身に付けた子供を育成するための学校づくりを、副校長・教頭がどのように推進していくべきなのかを明らかにすることをめざし、サブテーマを「郷土に愛情と誇りをもち 未来を生きる力を身に付けた子供の育成を実現する学校づくりの推進」とした。

### 3 岩手大会研究協議の視点

#### (1) 「未来を生きる力」を育む学校教育を考える

岩手県では東日本大震災津波からの教育の復興をめざし、各校で「いわての復興教育」に共通して取り組んでいる。その目的は「郷土を愛し、郷土の復興・発展を支える人材を育成する」ことにある。このことは、子供たちに「未来を生きる力」を身に付けさせる上で非常に重要な視点であると捉える。なぜなら、自分が生まれ育った郷土や自分を取り巻く環境を大切にしていこうとする心情を育てることが、持続可能な社会の担い手としての資質・能力等を身に付けさせていくために必要不可欠であると考えられるからである。そして、それは「未来を生きる力」を育むうえで根幹となるもので、岩手県で開催する大会だからこそ特に大切にしたい視点であると考えた。

以上のことを踏まえ、岩手大会では、副校長・教頭が学校現場においてリーダーシップを発揮しながら「郷土に対する愛情と誇りをもち子供」を育成する学校づくりを実現していくための方策や取組を「継続性」「協働性」「関与性」に焦点をあてた実践的研究をとおりて明らかにしていきたい。

#### (2) 「魅力ある学校づくり」を考える

岩手大会では「魅力ある学校」として重要な要素を以下のように捉える。

- ①教育に関する課題やビジョンを保護者や地域と共有し、協働しながら教育活動に取り組む学校
  - ②急速に発展・変化する社会を生きる子供たちにとって必要な資質・能力等を的確に捉えるとともに、それらを身に付けるための教育活動を創造し推進する学校
  - ③子供一人一人にとって心身ともに安心・安全が保障された学校
  - ④教職員一人一人が心身ともに健康で、やりがいと充実感をもって教育活動に専念できる学校 等
- これらのことを達成していくために、副校長・教頭が学校現場においてリーダーシップを発揮しながら保護者や地域との連携協力や教育課題の把握とその具現化、危機管理等による学校安全の実現や働き方改革の取組などをどのように進めていくべきなのかを「継続性」「協働性」「関与性」に焦点をあてた実践的研究をとおりて明らかにしていきたい。